

平成29年度 第3回豊田市商業振興委員会会議録

【日 時】 平成29年8月28日月曜日 午後3時00分 ～ 午後5時00分

【場 所】 豊田市役所 南庁舎5階 南53会議室

【出席者】 〈委員〉

尾碕 眞 [愛知学院大学商学部商学科 客員教授 博士]
松永 郁也 [豊田商工会議所 常議員]
河原 郁子 [とよた下町おかみさん会 平成24年度会長]
杉田 雅子 [株式会社 杉田組 ブルーベリー事業部取締役]
杉山 裕貴 [市民公募]
新田 都子 [高岡地域消費者グループ代表]
元岡 征志 [シー・プロジェクト代表 中小企業診断士/社会福祉士]

〈事務局〉

前田 雄治 [豊田市産業部部長]
早川 正文 [豊田市産業部商工振興室長]
清水 章 [豊田市産業部商業観光課課長]
疋田 一男 [豊田市産業部商業観光課副主幹]
鈴木 啓介 [豊田市産業部商業観光課担当長]
長嶋 友也 [豊田市産業部商業観光課主査]

【傍聴者】 なし

【次 第】

開 会

- 1 産業部長あいさつ
- 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
- 3 委員長あいさつ
- 4 議事
- 5 その他

【会議録（要約）】

1 産業部長あいさつ

2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて

3 委員長あいさつ

4 議事

（1）豊田市商業活性化プラン骨子案について

事務局から資料に基づき商業活性化プラン骨子案の説明を行い、委員から意見を聴取した。

【主な質疑応答】

委員

新規の個別事業ということだが、出店促進事業はあまり実施してこなかったということか。

事務局

商店街が主体となって実施する必要があったためか、申し込みがなかった。そこで今回は、個店へ直接補助を行うようにすることで、創業者が支援を受けやすい仕組みとした。

委員

対象となる店舗はどのくらいあるか。また、改装費は創業者の自費となるのか。

事務局

市全域として10店舗くらいと想定している。改装費は創業者の自費となるが、改装期間中の家賃を補助することを考えている。

委員

豊田市の家賃相場はどのくらいで、出店する業種・業態はどのようなところを想定しているか。

事務局

家賃の相場は、名古屋市に近く高い状況である。また、出店する業種・業態の選出は商店街からの協力を考えており、商店街活性化計画の中で不足する業種・業態を出していただき、それを埋める店舗と考えている。

委員

不足している業種・業態の店が出てこないのは、ニーズがないことも要因と考える。他市では、自分で空き店舗を埋めていく事例がある。

事務局

商店街の中で、伸ばしたい業種・業態ということでも良いとも考える。

委員

他市では、活性化のコーディネイターを呼び込み、その人をお願いしたという事例もある。個店や商店街に頼るのではなくて、大学と連携ということで学生と連携したチャレンジショップというのもある。10店舗の出店者をどのように集めるか。

事務局

流れとしては、商店街で業種・業態を選定して頂き、市で一括募集する。その後、市で審査を行ったうえで、選定された事業者に補助を出していくということを考えている。

委員

率直な意見としては、家賃だけの補助では、なかなか集まらないと思う。それから、必ずしも不足業種ということにしなくとも良いのではないかと思う。開業資金としては改装費等で1,000万円から2,000万は必要になるので、家賃だけの補助だけでは魅力がないと思う。また、何年かやって頂くことになるかと思うが、そこに
出店した以上、商店街に入って頂くという流れになることが望ましいと考える。

人材育成支援事業についてだが、補助率はどのくらいで考えているか。

事務局

まだ決定ではないが、今のところ9割の補助率を考えている。

委員

事業者は事業としてやりたいことは有るが、具現化していく時間がないというのが実情かと思う。しかし、人材育成支援事業は必要な事業かと思うので、長く実施して頂きたい。

委員

創業出店促進事業は、今までの問題点や経緯を説明した上で、このような制度にしたと説明された方が良いと思う。人材育成支援事業についてだが、市のアドバイザー事業で支援を受けた店が良くなっているという状況が見られるので、今後もアドバイザーを商店街に派遣してもらえれば、商店街の店は伸びると思う。

委員

創業出店促進事業については、創業を検討している人の選択肢の一つになると思うし、家賃だけでも補助してくれるのであればありがたいと思うが、補助交付の業者選定に際しては、不公平にならないようにしてほしい。

人材育成支援事業については、個人で店をやっている小さい店は、日々の業務に追われて、勉強をしたり、新しい情報を得る機会がほとんどないが、指導してもらえる機会があるのであれば、個人にとっては良いことだと思う。

委員

不足する業種ということでは、電器屋が重要かと思う。電球を交換するなど、ちょっとしたことを手伝って頂くようなお店があると良いと思う。「便利屋」という会社の場合は、信用面で劣るかと思うので、商店街の中に入っている人にやって頂きたい。

委員

私が知っている電器屋は、各家のことを良く知っており、的確に解決してくれる。

委員

このようなサービスができる電器屋が長く営業を続けている。物を売っているだけの店は続かない。

委員

既存の商店街店舗等整備事業は、どれだけの需要があって、どれだけ募集が来ると期待し、実績としてどれだけ出てきたのか。

事務局

そもそも商店街として店舗を整備する事業であったため、期待した店舗数としては毎年1～2店舗分を予算化していたが、実際は3年間募集して、実績は0件であった。

委員

それは、市の商店街へのPRが弱かったからか。

事務局

商店街とも話をしながら今の制度にしたのだが、改装費について、商店街として資産を持つことに対しハードルが高かったのではないかと考えられる。

委員

新規で募集しても、また0件になるのではないか。

事務局

そうならないようにPRのところから市で頑張って募集をやっていく。

委員

起業する人からすると、ホームページで行政からの補助がないか調べると思うので、フェイスブックやホームページで積極的にPRすべきだと思う。

人材育成支援事業は、こういった補助なのかを詳しく知りたいと思う事業者がいると思う。

委員

出店する側からすると魅力的な補助内容にはなっていないため、他のメリットとして、従来から行列ができていた店舗の事業承継については、補助内容を充実させるなどはどうか。

人材育成支援事業については、マーケティング能力強化や新規開発能力強化に関することなど、内容を限定してはどうか。

委員

創業出店促進事業は、豊田方式としてのメリットを出す必要があるかと考える。

人材育成支援事業は、個別に個店を選んで実施することが良いと考える。組織全体への実施となれば、マーケティング能力強化とか新規開発能力強化に絞ることが

良いと考える。前回は話した人材育成コースの補助を出してもらいたい。瀬戸校でも講座を開催しているため、それも良いと考える。それから、経営の基本的なところとして、日本商工会議所主催の簿記検定2級を取るための補助制度も考えてもらいたい。これは全体で考えられる人材育成かと思う。

委員

起業・創業支援事業については、起業は立地が重要であるため、商店街に立地効果があるなら良い。また、買い物環境改善事業は、先ほどの話でもあった電球の交換や、外出支援も含まれると良いかと思う。

委員

商店街等事業機会拡大事業の「見直し」というのは、どのような意味か。

事務局

今までの事業では、人材育成支援事業もこの事業に含まれており目立たないものとなっていたため、新しいプランでは目立たせるために分けたことから、「見直し」とした。

委員

販路機会拡大創出事業は、具体的な商談場所はどこか。

事務局

スカイホール豊田の貸し会議室で行っている。

委員

特産品展は、集客力のあるエキナカや百貨店の催事場も良いのではないか。

事務局

そのような場所でも実施は可能であり、過去に豊田松坂屋店の1階でも過去に実施していた例がある。

委員

出店者として様々な特産品展に参加したが、やって終わりになっているものが多く、行政がやったのでは商売人がやるような活気は出せないと感じた。身になるものにするためには、中抜きにならないようにすべき。

事務局

この先もずっと市で実施するつもりはなく、事業者がこの特産品展で経験を積んでビジネスチャンスにしてもらえればと思っている。最初的时候は市が直営で事業を実施していたが、今年は事務局を商工会議所にやっていただき、事業者には企画段階から入ってもらうなど、今後は事業者が自ら特産品展を実施してもらう形にしていきたいと考えている。

委員

地産地消の意味では、豊田市役所の中に販売できる場所を提供しても良いのでは。そこで、市の職員が購入して家に持ち帰り、それが家族にも好評であれば、次は店舗で買うということに繋がると思う。

事務局

昔は業者が庁舎内に販売に来ていたが、業者選定等で公平性の観点から難しくなった。

委員

卸売り業者とのマッチングがあっても良いと思う。ノウハウを教えてくれる。

事務局

頂いたご意見を踏まえ事業の詳細を検討していく。次回の委員会は、10月23日（月）となる。